

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		仙台市西花苑たんぽぽホーム		公表日		令和8年3月19日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		構造化を行うため、活動によっては、別室やホールを併用する等の工夫を行っている。	1クラス10名弱のこどもと保護者がいるが、スペース的には確保されていると考える。但し、こどもの状態像によって構造化することで、活動によっては手狭と感じる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		当日の出席人数や児の状態像に応じた職員配置を工夫し、安全に配慮している。	・医療的ケア児が多く、看護師の配置数に限りがあることがあり、更なる工夫が必要である。 ・肢体不自由児は1対1対応の児が多く、また3歳以上の単独通園枠の児が複数名いる場合、通常の配置人数では安全が十分に保障できない場合がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		スケジュール表示やパーティションの活用など、わかりやすい環境設定をしている。床が冷たいため、肢体不自由児にはマットを敷き対策をしている。	こどもの状態像によりクラス内でも2部屋を使用していたが、情報の伝達の不足などの課題があり、年度途中で教室の変更を行い対応してきた。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		・清掃は毎日実施している。危険箇所の点検も月1回の定期確認以外にも日々確認している。生活の導線、動きに合わせた空間づくりに努めている。登園する児に合わせたあそびの設定と環境を整えている。 ・看護師がホーム内全館の衛生管理をしっかり行ってくれている。	・肢体不自由児のトイレスペースの確保が難しく、同室でのオムツ交換となってしまう。パーティションで区切りはつけているが、改善が必要である。体温調整が難しい児がいるため、クラス全体での適温の設定に迷う事が度々あった。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		部屋の一角をパーティションで区切り、必要児に使用したり、別室で対応したりし、気持ちの切り替えや集中できる環境を作っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		支援計画はもとより、日々のお子さんの支援、保護者支援に際してはPDCAサイクルを行えるよう意識している。初任職員に関しては、指導係、園長、主任と前期・後期に目標設定と振り返りを行った		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者向けの評価表以外にも日々の会話からニーズを拾い上げを行う等しながら以降の確認を行い、都度職員会議で話し合い、業務改善につなげている。	定期的に振り返ることや園全体の課題の検証を行ってきたが、さらに今後深めながら業務改善につなげたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		各職員と園長、主任が面接し、意見を述べる場を設けている。会議、日々の振り返りの中で発言できる雰囲気と機会を設けられるよう意識している。	より発展的に業務改善できるよう、職員会議の時間的確保をゆとりをもって行える工夫は必要と感じている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		市の運営指導を受け、業務改善につなげている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		初任、現任者、主任、園長などキャリアラダーに沿った研修を階層的に設定し企画実施できている。受動的な研修にとどまらず、実技研修も実施している。	法人内の研修は充実しているが、園内の研修も充実していきたい	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		HPIにて公表していると共に、園内にも掲示して保護者にも理解しやすい工夫をしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		アセスメント、モニタリングを実施し、支援会議を開き、園全体で客観的に分析し支援計画の作成を行っている		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		クラス担任、児発管を交えて会議を実施している。		

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画作成時からクラス担任が内容を共有するようにしている。個別支援計画は、回覧を行い、クラス事の日々の中でも支援の表、振り返りを実施している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		共通のアセスメントシートを基に、状態像のアセスメントを共有している。また、心理士による発達検査について、保護者に情報提供し、希望があれば実施している。結果については、保護者およびクラス担任で共有している	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		全項目の狙い、支援内容を設定し、日々の活動や関わり方および個別活動に取り入れている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		指導計画および支援計画に基づいて立案を行い、事前にクラス間で確認を行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		固定化する事で発達が促されるお子さんもいるため、固定化という意味合いではなく状態像に合わせて回数や内容を工夫している。活動については、同じでも個別の目標に応じた提供や段階づけを行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		居室数の兼ね合いで、個別と集団を適宜実施することは難しいが、「のびのび」活動として支援計画に基づいた個別プログラムを立案し個別指導の時間を設けている。	集団の中でも個別支援としてのオーダーメイドの支援を実施している。肢体不自由児クラスにおいては体調面などにより登園率が低く、活動が個別に偏る傾向があるため、集団活動も組み合わせている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		短時間勤務の職員もいるため、支援内容や役割分担は前日に確認し、当日も出席状況に合わせて変更点や役割分担について確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		各クラスの振り返りと全体の振り返りを行っている。	短時間勤務の職員もいるため、効率的に振り返りを行えるよう、時間管理を行っていく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録の取り方もアセスメントを意識した内容となるようにしている。同じ行動を適切にアセスメントし記録できるよう研修も取り入れている	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		見直し時期にモニタリングを行っている。お子さんの状態によっては必要なモニタリングを実施するようにしている		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		園長とクラス担任が参加している。本園を会場として提供し、日々の療育についても理解していただける環境を整えている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域柄、密に連携をとるようにしている。また、医療的ケア児が多いため、医療機関や病院でのリハビリに同行訪問を実施するなど連携を行っている。	
	26	併利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の同意の元、移行シートを作成し、引継ぎを行ったり、卒後訪問も行いながら理解に努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の同意の元、移行シートを作成し、引継ぎを行ったり、卒後訪問も行いながら相互理解に努めている	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		全事業所を対象とした研修の他、地域の事業所向けの研修、情報交換会を企画し実行している。また、実際の療育場面の見学会を行っている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		専門家より事例検討のスーパーバイズにて助言を受けている他、外部の研修等にも積極的に参加してもらっている。	
30	(自立支援)協議会こども部会や地域のこども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		地域における子育て会議や、支援者等関係機関との連携会議に参加している。		

携	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	-	-	-	-
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		近隣の小規模保育園から月に1回交流として来園してもらい、一緒に遊ぶ時間を共有している。そのほか、活動の一環として地域の児童館を利用している。	肢体不自由児クラスにおいては、地域交流が出来なかった。感染症に留意して、次年度は企画していきたい
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		親子通園なので、基本的に日々の登園の中で共通理解を図れるよう関わっている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		たんぼぼガイド①～⑤、ペアトレ、先輩保護者との懇談などの他に、父親勉強会も開催し、情報提供などを行っている	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		入園説明会において、説明をしている。また保護者が確認しやすい場所に掲示している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		初回の面談、モニタリングごとに実施している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		面談時に支援内容等、現在のお子さんの姿と照らし合わせながら、必要な支援について説明している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		随時対応している。クラス担任や主任、園長で対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		グループワークや日々のブレイクタイムで保護者同士、情報を共有する場を設けている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者の不安に寄り添えるよう、タイムリーに対応できるよう、体制の調整を行いながら行っている。	タイムリーに動けるときもあれば、すぐに判断がされずタイムラグが生じることがあった。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームだより、クラスだよりを毎月発行している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		年度初めに職員間でマニュアルを確認している	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		状態像(理解できること)に合わせて視覚支援も取り入れながら行っている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		行事への招待はしていないが、地域の町内会との災害時避難マニュアルの共有や、ホームの教室を貸し出し地域住民の健康クラブを月に一回開催している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年度初めにマニュアルについての説明を行い、保護者の見える場所に各種マニュアルのファイルをおいている。避難訓練では災害のみならず、防犯等の訓練も実施している。	近年多くなっている、熊出没などへの対応等についても検討していく。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		月に1回避難訓練を行っている。	医療的ケア児の避難訓練について、より具体的な場面を想定した訓練の充実を行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者説明会の際に、健康管理カードの提出をお願いしている。また、継続児のお子さんにも追記をお願いしている。今年度は健康管理カードの見直しをおこなった。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	現在は食事の提供はなく対象児がいらないが、健康管理カードにて食物アレルギーの有無、緊急時の対応について共有している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		月に一回職員全員で安全点検を行っている。また外部業者によって、遊具等の点検を実施している。園外の散歩についても、下見を兼ねて常に安全管理を実施している	

応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画の他、防災時の個別災害計画を共有している	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットの案件があった場合は、会議で共有しかつ記録を全員に回覧し、再発防止に努めている	今後もより安全な支援を目指し、ヒヤリハットから再発防止についての学びを深めていく
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止の園内研修を実施している。また虐待防止委員会を月に一回実施している	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		経鼻チューブ抜管のためミトンを装着しているが、登園時間内は外している。どうしてもやむをえず身体拘束を実施する際は、保護者に説明し同意を得て、拘束時間を記録している。また身体拘束をしないための対策会議を月に一回実施している。	身体拘束についての記録などは整備できた。今後は安全な支援に向けて更に職員体制や支援のあり方を見直し、支援計画にも記載を行っていく。